

## 1. 題材名

### 「附中現代徒然草～形や色で、つれづれなるままに～」

現行<学習指導要領 A表現(1)及びB鑑賞(1)>

新<学習指導要領 A表現(1)(3)及びB鑑賞(1) 共通事項(1)>

## 2. 題材について

### (1) はじめに

TV やラジオ, 新聞・雑誌と情報メディアの発達によって, 特にインターネットが急速の早さで普及し, 更に通信速度が高速化したことで, 世界の距離が非常に近いものとして感じられるようになった。グローバル化が進み, ボーダーレスになってきた反面, 国としてのアイデンティティが曖昧になっていることも事実であろう。このような状況の中で自国の文化について考えることはとても意義あることではないだろうか。そこで, 日本の美術とは一体どのようなものを指すのであろうか少し考えてみることにしたい。

岡本太郎によって, その造形美が再発見された縄文土器, 仏教伝来から鞍作止利(止利仏師)をはじめとした飛鳥・白鳳時代の仏像, 室町時代の水墨画, 桃山時代の絢爛豪華な障屏画, 南画, 浮世絵など美術史を辿っていくと枚挙に遑がない。しかしその流れを端的に言うと, マクロ的に見れば東アジアの一亜種として中国, 朝鮮からの影響を受けつつ大陸から入ってきた文化が醸成され「自分たちの風土に合うようにアレンジされていったもの」と, それが時代とともに変容していき, 平安時代になって日本的な美術文化を誕生させた「自国のもの」とが繰り返し現れていると言えるかもしれない。世界的な人類学者のクロード・レヴィ＝ストロースも「借用と総合, シンクレティズム(混合)とオリジナリティ(独創)の反復交替が, 世界における日本文化の位置と役割を規定するのにもっともふさわしいものとする」と(大久保喬樹『見出された「日本」』平凡社)と述べている。

その後, 日本美術は幕末, 明治維新による欧化政策や敗戦による皇国史観の否定によって欧米のルールに拠る中で展開してきた。その中でフェノロサや岡倉天心によって「日本的」なものへの重要性が声高に叫ばれたりもした。しかし, 例えば絵画を例に挙げると「日本画」と「洋画」との違いはどこかと言われれば, 主題に対しても明確な区分けはできず, 結局のところ描画材料の違いでしかないと結論づけている研究者もいる。本質的なところでは数多くの矛盾をはらんでいるということである。絵画一つとっても理念的な部分においては非常に曖昧なものであるため, 前述の疑問に明確に答えることが難しいと思える。しかし, 1990年代よりアーティストたちがそれまでの欧米のポストモダニズムにおかれた重心を「日本的なもの」と向き合い作品を生み出していることにシフトしたことについて, 評論家の浅田彰は近年のムード的な日本回帰の風潮を, 古典的な日本回帰と区別し, J ポップのJをとって「J回帰」と提起し, 日本の固有性へのまなざしを指摘している。そして, この傾向は今も継続しており, 日本美術ブームは依然として続いているようだ。また漫画やアニメに代表されるサブカルチャーが現代の「日本的」なものの一つととらえるならば, 村上隆が提唱したスーパーフラットが世界の美術業界を席卷したことから, 非常に感覚的なところとして理解できる部分があるように思える。そして, この感覚的なところを感じ取ることができれば, 例えそれが風潮といえども紛れもない日本の文化として, 自国の美術や文化に対する関心を高めることにつながるのではないかとと思うのである。

美術史家の辻惟雄は『日本美術の歴史』の中で, その特質について「かざり」と「あそび」, 「アニメイズム」であると述べている。これらのキーワードが, 日本の美術を紐解く重要な要素として, 自分たちはどのような過程で今日に至っているか, 子どもたち自身が感じ考える機会としたい。そしてそこで感じ考えたことと, 今この現代社会の中で日々子どもたちが感じ考えているものを融合し表現していくことで, 創造活動の喜びを感じ, 引いては自国の文化を理解し, 大切にしていこうとする心情を育てることにつながっていけばと考える。

## (2) これまでの活動 つながり かかわりと言う点で

本研究の1年目は、オートマティスムの技法で制作したカード(素材)を基にコラージュ技法を使って「表情のある顔」を制作した。これは、とかく図画工作から美術に変わるときに起こりやすい「中1ギャップ」を回避するため、また新しい学習指導要領を踏まえ、小学校からのつながりを意識して、馴染みやすく今まで学んできたことをもとにイメージをふくらませ、中学1年生としてしっかりとステップアップできるようにという思いから設定したものである。形や色彩から広がるイメージをもとに、思い浮かんだ喜怒哀楽の感情を、今まで経験してきた状況に照らし合わせ表現したり、また、自分で思い描く表情をもとに、形や色彩、技法を選択し、表現に必要な素材を用意し制作していくことで、[共通事項]である、形や色、組み合わせなどの感じをとらえ、自分のイメージがもてる取り組みにしたいと考えた。生徒は偶然できた形や色の組み合わせによる模様を楽しんで制作していた。色彩による感情表現について学習することで色の特徴を理解し、自分のイメージする表情のある顔を意欲的に制作していたが、今一つ具体的な状況においてのイメージではなかったため、微妙な形や色彩に目を向けるところまでには至らなかった。



続いて鑑賞授業を仕組むことにより、前題材で育ててきた形や色彩から感じ取る力を更に育てたいと考え、名画を鑑賞し、自分なりの解釈を交えて制作する「チャレンジ!アレンジ・アート」という題材に取り組んだ。美術作品の見方、読み方を深め、美術文化に対する理解を深めるとともに、よさや美しさを味わうことができるよう指導に臨んだ。作品を鑑賞することは、じっくり観察し、どのように表現しているか、その理由を考えることで観察力や分析力を高めることができる。更に作品の背景を探ることによって歴史的事象にも目を向けることも視野に入れ取り組みを行った。生徒からのまとめの感想からも、以前は単に漠然と作品を見ていただけだったが、この題材に取り組むことで見方を学び、違った視点で見ることができるようになったと書いた生徒が多かった。



昨年度は、この違った視点を、更に現代の社会へと視野を広げ、グループ活動を通して感じ方、考え方を形や色彩、材料などを基にイメージを持たせ、発想・構想し創意工夫して更なるレベルアップを図っていきたいと考え「わたしたちがつくる



かんきょう(環境、感興、感・供)アート~グループワークでかんきょうを考える」という題材に取り組んだ。これは、総合的な学習の時間とのかかわりを利用して「環境」を題材にグループ活動を通してマクロ的視点を与え取り組んだものである。意識レベルでの高まりがあったことは成果としてあげられるが、概念が先行するあまり自分たちの身近なもの



としてのとらえ方に偏りが出てしまったことは課題としてあげられた。そこでこの後の題材では、個にかえる取り組みを考え、自分たちの身近な生活環境に目を向け自分自身を掘り下げる取り組みを行った。具体的には、前向きな自分を「自画像」としてドライポイントで制作した。自分と向き合うことから、自己とは何かを考えさせるきっかけとした。版画で表現させる意図としては、表現方法の広がりや学習することはもちろん、鏡に映った自分を参考にすることから、本来の自分とは反転した「私」を見ることになるため、刷り上がってめくったときに初めて本来の「私」が現れるということをおねらったことである。また総合的な学習の時間では修学旅行の学習の取り組みも行った。この取り組みを通して「日本的なもの、和とは何か」というようなことを意識させながら修学旅行にも臨ませた。その中で、先に挙げた自画像の取り組みから、もっと深いところで自分たちのアイデンティティを考える取り組みにしたいと考えた。また、絵画から日本的なものの特徴を感じ取るという学習を、展示活動を通して学ぶことができるよう仕組んだ。生徒の表現能力を豊かにするために、事前



に山梨県立美術館の教材「移動アートボックス～日本画編」を使って屏風や絵巻物、掛け軸などを本物やレプリカを交えて学習する機会を持った。その上で幾つかの時代の日本と諸外国(西洋)との作品から、制作年や主題、表現されているものなどをたよりにカテゴライズさせることにより、その特徴を捉え、実際に並べてみてどのように見えるのかを感じ考えさせた。表面的な特徴ばかりでなく、作品の中に入り込み五感で感じ取ろうとしていた生徒も見受けられ、鑑賞の能力に対する高まりを感じることができた。これまでの活動には上記にあげたもの以外

に、鎌倉盆を制作し伝統工芸を学習したり、アクリル絵の具の使い方からポスター制作をしたり、発想・構想の力を育むために短時間でオノマトペから1枚の新聞紙を使って抽象表現に挑戦したりしたことも一応付け加えておく。

そこで本題材では、自分たちを深く掘り下げて考えていくことと、環境アートで育んだ視野から、日常の中で感じ、考えていることを主題に表現していくという広がりをもつ結びつけていくか、そのためにはどのような表現手段を選択し利用することが適切か、まさに総合的な義務教育の締めくくりとしての題材と考えている。

### (3) 生徒の実態

学習に対する意識は高いものの、この時期特有の、分かっている手を挙げなかったり、率先して発表しようとする生徒が見受けられない状況が多かれ少なかれある。万が一違ったらどうしようという失敗を恐れていることもあるだろうし、集団としての開かれが十分でないと言えるかもしれない。美術の授業においても、制作に熱心に取り組んだりする生徒は多いが、表現したことに自信を持ってみんなの前で発信するということまでには至っていない。しかしグループ活動など小集団においては自分の意見をはっきりと述べることができ、授業後の感想などを読んでみても学習の目標をしっかりと達成できている生徒が多い。

日本美術の絵画については、西洋画に慣れ親しんでいることと、写真のようなリアルな表現に目がいきやすいため、技術的には圧倒的に低いと感じている生徒も少なくない。しかし、印象派の画家達がジャポニズムに影響されたように、日本美術のどんなところに魅力を感じたのかを考えることによって、圧倒的に技術不足と感じていた部分が、実はそうではなく日本の美術作品のよさだと気づき、価値観の転換が行われた生徒もいた。そして展示活動を通して、仲間とのコミュニケーションから更に味わいを深く理解していくことにつなげることができたのではないかと考えている。そこでこれからは社会的な視点に立ってものごとをとらえたり、普段何気なく生活している中に疑問を感じ、そこを深く掘り下げて考えたりする活動を仕組んでいきたいと考えている。そしてその中で、それに適した材料を日本的という要素を意識しつつ選び、その特性や組み合わせなどから発想し、構想して独創的・総合的な見方や考え方ができるようにしていきたいと考えている。更にそれらを生かして創造することの楽しさを感じられることに繋げられるようにしたい。

### (4) 本題材に関わって・・・

先述したとおり、自己をみつめ深く掘り下げていくことと、そして他者との関わりから新たな発見や思考を深め、それからそれを取り巻く社会を視野に入れて、それらをどう作品として昇華させていくか総合的に取り組む題材を考えた。もしかしたら美術の授業を受けるのは一生のうちで中学校3年生までという生徒も少なくない中で、美術の授業に限らず今まで学習してきたことをどの場面でどう使うかを考え制作すること、つまりかかわりを見出し学びの「つながり」を意識した活動から、美術科が目指している資質や能力の高まりを実感することができればと考えている。そしてこの3年間で一生、芸術文化を大切に、そして楽しさとすばらしさを感じ取れることにつながればと考えている。また、本校は県下中学校のパイロットスクールとしての役割を担っていることから、本題材を授業者なりにアレンジして使えるようなものでなければならないと考えている。昨年度の「環境アート」もそうであるが、私自身がどちらかというと不勉強であり不得意としているところを敢えてチャレンジすることで、誰でもが取り組める題材になるのではないかと考えた。そのための題材を研究初年度から常々考えてきた。

そこで新たに学習指導要領に加わった「美術文化についての理解を深め」ることを表現も含めて取り組めるよう「日本的」なものを考え、そこをよりどころとしつつも、中学3年生という14、15歳の生徒が普段の生活の中から感じ取ったり考えたことを基に主題を生み出し、作品として編み上げていくという題材に考えが至った。学習指導要領美術科解説編には、「美術文化についての理解を深めることで（中略）美意識や創造的な精神などを直接感じ取ることができ」、「それらを踏まえて現代の美術や文化をとらえることにより文化の継承と重要性を理解する」とある。本題材のタイトルにある『徒然草』は兼好法師による鎌倉後期の随筆である。本題材はこの『徒然草』のように、日頃感じていること考えていることをテーマに、自分たちが生活しているこの日本を意識しながら、思うままに形や色彩、適する材料を選び表現して行ってほしいという思いでつけたネーミングである。つまり現代版徒然草の美術バージョンである。本題材は現代の美術を「日本的」なものの中で考え表現することにより、上記の目標に近づけたいと考えている。

具体的には、個人でテーマを設定し考えることから始める。これは、本校のSELF（**S**earch, **E**xperience, **E**njoy, **L**ife planning, with **F**riends：総合的な学習の時間）で卒業論文という形で各自課題を設定し、調査・研究を行っていくということにもつながるところがあり、主題設定についても参考のできる部分がある。また教科間との横のかかわりも視野に入れ、美術の活動を媒介として総合的に考え表現していくことに繋げることができればと思っている。

主題などを基に、また「日本的」なものを意識する中で、関連する素材（材料）から受ける感じや組み合わせなどを考え、イメージをふくらませて表現させていきたい。

### （5）学習時に配慮すること（本校の研究とかかわって）

- ① 12時間の学習とする。
- ② 自分たちの生活の中で、日頃感じ取ったことや考えたことと「日本的」なものを考え合わせて制作する。
- ③ 学びのつながりかかわりを意識し、形や色彩、適切な材料などを考え制作する。

これらのポイントを確認した上で構想を練り始めることにする。

本校では「かかわり」をキーワードに研究を進めてきた。このかかわりは既習の学習内容や教科の中での全体との位置づけ、日常事象とのかかわりを意味するものである。他教科や、総合的な学習の時間などともかかわり、日々生活している中で主題を見出し、目を向けさせることはまさに日常事象とのかかわりを考えていくことであり、これまで育ててきた形や色彩、材料などの性質やそれらが周囲に与える感情などを考え、作品制作を行っていくことは本校の研究方針に沿う内容である。元々美術は自己を表現していく教科であるので、インプットしたことをアウトプットしていくという全体研究の流れに対しても自明である。

また、昨年度グループで取り組んだことから、コンセプトを発表しあったり批評し合ったりする中で制作を進める際に得る多くの刺激が自己の新たな発見や他者理解につながり、また自己評価のレベル向上にも結びつくことを今後も仕組んでいきたいと考えている。言語活動の推進という点においても、しっかりと自分の意見を明確に持てるようにしていきたい。その中でどのように考え方が変わっていったか、もしくは自分の考えに自信が持てるようになったかそのプロセスがわかるような「学習ガイド」を用意したいと考えている。

評価についてはこの「学習ガイド」を有効につかって個別指導を行っていくとともに、意欲を喚起するようにしていきたい。

## 3. 題材の目標

- ・自分が普段感じ考えていることからテーマを設定し、日本的なものとして表現しようとする。
- ・自ら設定したテーマと日本的なものをどう結びつけるか考え、構想を練り、それを基に必要な材料や用具を選んで創意工夫し表現する。
- ・作品を鑑賞し、その意図や工夫を感じ取り、批評し合う。

### ○美術への関心・意欲・態度

日々生活している中で興味を持ったことや疑問に思ったことなどを取り上げ、それについて真剣に考えようとしているか、このことがまずできなければ、主題が決まってもこないし、また「日本的」

なものを感じ取ろうと自らしていけない限り、その後の活動もそこから生み出される作品も安易なものになってしまう。ここでのモチベーションがしっかりと持つことができれば、その後の活動も必要な情報を積極的に得ようとしたり、よりよい作品を制作しようと試行錯誤していきだろう。時間の許す限りつくり、つくりかえ、つくり続けるという姿勢につながっていけばと考える。

### ○発想や構想の能力

日々の生活の中で感じ考えていることを、日本的な表現としてどう作品化していくか、形や色彩、材料の特性などを考え構想を練っていく。「もの」だけでなく、「光」や「音」、「雰囲気」といった付加的な要素にも着目させ、「想い」の具現化に結びつけるようにしていきたい。

また、生徒相互の意見交換からアイデアがどのように変化をとげていったのかがわかるようなワークシートを用いて評価をしていきたい。

### ○創造的な技能

表現意図に応じた素材を考え、効果的に表現しているか考えながら制作に臨んでいくようにする。「材料」には制約を設けず、各自の表現意図に応じて適切な材料を考えさせていきたい。何をもって「日本的」ととらえるか、しっかりと感じ取らせた上で色や形、材質などを考慮し計画的に制作をしていくようにする。

短時間の制作を強いられるため事前の計画に沿って作業を進めていくが、フィードバックできるように配慮し、修正を加えながら進めることを示唆する。表現テーマに沿ってこだわりをもつことで、どうすれば自分の欲求を満たす作品に近づくことができるか実践の観察から確認していきたい。

### ○鑑賞の能力


現代のアーティストが行っている活動などを紹介する。作家の表現意図を考えさせる。作品制作時の鑑賞では、日本的なものに対するそれぞれの視点について理解し、見方が広がっているか、どのような目的でどう表現したのか表現意図を探り、表現の工夫を感じ取り批評しあう場を持ちたいと思う。作品完成後の鑑賞ではお互いの作品のよさについて感じ取ることができているか個々のレポートを確認して評価していきたい。

## 4. 題材の評価規準

		【A 表現（1）、B 鑑賞】			
観点		基礎的・基本的な知識技能			
		【共通事項】形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 材料・用具の取り扱い、形や色彩などに関する幅広い知識・技能 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             表現主題及び日本的なものについて考えたことを形や色彩、材料などの特性を理解し、そこからイメージをもつ。           </div>			
		思考力・判断力・表現力等を身につける力			
		ア；美術への関心・意欲・態度	イ；発想や構想の能力	ウ；創造的な技能	エ；鑑賞の能力
学習活動における具体的評価規準	<b>表</b> ①新しいものを発想することを楽しみ、構想を練り表現方法を工夫するなど、学習に意欲的に取り組んでいる。 <b>鑑</b> ②日本的なものを感じ取り、表現意図とのかかわりを理解して本質的なよさや美しさ、作者の主題、心情や意図と創造的な表現の工夫などを主体的に感じ取ろうとしている。	①イメージを膨らませて想像したことなどを基に主題を生み出している。 ②表現の意図や構想、表現方法など主題などを基に想像力を働かせ、形や色彩の効果を生かして単純化や省略、強調、材料を吟味しその特性を理解して生かし方を考え発想し構想する。	①感性、造形感覚や美的感覚など働かせ、材料や用具を効果的に生かして美しく創造的に表現する ② 様々な表現方法を工夫し、よりよいものにしようと創意工夫している。	①形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の主題、心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り自分の勝ち意識を持って味わったり批評したりして見方や感じ方を深めている。	

5. 指導と評価の計画（全12時間；600分間/短縮により変更あり）☆が本時

	学習内容	具体的な活動	備考（12時間）
第一段階	制作意図の確認 テーマの確認 各自の制作テーマの決定	共通テーマ『日本的』の確認 作文（自分が普段感じ考えているもの） ウェビングから個人のテーマの決定	2時間 ア①イ①
第二段階	構想 （主題を基に構想を練る）	アイデアスケッチ→決定 素材自由選択	1時間 ア①イ②
第三段階	制作計画立案 （完成予想図の作成） 素材（材料）の決定	制作計画書記入（企画書作成） 発注書記入→提出 ※カタログ確認は授業以外の時間に行う	1時間 ア①イ②
第四段階	制作Ⅰ☆ 制作Ⅱ	・基礎づくり（下地・下描き・土台等） ・企画書の発表，再検討 ・発展的制作（仕上げまでの作業）	7時間（2：5） Ⅰ：ア①②イ②エ① Ⅱ：ア①②イ②ウ①②
最終段階	鑑賞	・作品発表会	1時間 ア②エ① イ②ウ①②（完成作品から）

時 分	学習活動	評価				評価方法（☆：Cへの手だて） 備考
		関心	発想	技能	鑑賞	
50	Ⅰガイダンス ■制作意図の確認（導入） 題材名から『徒然草』の現代語訳を朗読し，鎌倉後期の美意識や道徳観など現代と比べて共通点・相違点は何か考える。共感できる部分が「日本的」なものとして本題材に入るきっかけにつながるかもしれないことを伝える。 ○表現主題と「日本的」なアートについて どんな目的でどのような活動をしていくかの説明。これまでの取り組みから今後の活動についてなど。	①				□は，評価方法  は，留意点 朗読を通して言語活動の推進に寄与する。 『古典文学全集5 枕草子・徒然草』
50	■普段感じ考えていることを列挙し，その中からマインドマップやウェビングから各自のテーマを検討し決定していく。 テーマに沿う「日本的」な表現方法を模索する。	①	①			□取り組みの様子&学習ガイドの記述内容 ☆自分が興味を持っていることなどから考えるようになるようにする。
50	Ⅱ構想 ■日本のものをふまえながらテーマに迫る表現をアイデアスケッチする。 ○各自で決めたテーマに迫る造形表現。 絵巻物，屏風，掛け軸，漫画やアニメなど絵画表現としていくか，木や和紙など各自が日本的と感じ取った材料などを使って立体表現をしていくか，材料や表現方法に限定することなくとにかくできあがった作品から「日本的」と感じさせる表現をするかアイデアスケッチから構想を練る。	①	②			・アイデアスケッチする。 （日本のもののイメージ） ☆日常の中で日本的と感じることを列挙させなど，そこから考えるようにする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1, 2年時に学習したことや日常生活の中から注意深く思い出させ，形や色彩，材料の特性など考えイメージをもつようにする。（本校の研究であるかわりを意識するようにする） 下線部は【共通事項】</div>

<p>5 0 *どんなものをイメージして制作に臨むか、巡回し確認をしていく。授業後、学習ガイドなどでコンセプトの深化を図る。</p> <p>5 0 ■制作企画書の作成</p> <p>どんな意図でどのような材料が必要で、どんな手順で制作を進めていくか計画を立てる。</p> <p>(各自HW；アイデアスケッチ、企画書作成。自分の考えを準備し、グループ内で作品意図を伝えられるようにしておくと共に材料の準備もしておく)</p> <p>5 0 ■制作Ⅰ-1（1時間目）</p> <p>素材準備、下地・下書きなど</p> <p>5 0 ■制作Ⅰ-2（2時間目）☆本時</p> <p>グループ内での中間発表</p> <p>説明を通して作品意図の明確化を図ると共に他からの意見も参考に再度練り直すようにする。</p> <p>美術作家による作品紹介（再検討喚起）</p> <p>5 0 ■制作Ⅱ-1（3時間目）</p> <p>※研究授業は本時の0.5まで実施</p> <p>5 0 ■制作Ⅱ-2（4時間目）</p> <p>計画的に制作を進める。</p> <p>5 0 ■制作Ⅱ-3（5時間目）</p> <p>5 0 ■制作Ⅱ-4（6時間目）</p> <p>作品のセッティングなども考えながらつくりかえたりする。</p> <p>5 0 ■制作Ⅱ-5（7時間目）</p> <p>作品の完成</p> <p>5 0 ■作品鑑賞会</p> <p>○他の生徒の作品を鑑賞しあう。</p> <p>どのような意図で制作したか読み取る。説明を聞き、お互いに批評しあう。</p> <p>「鑑賞シート」に記入</p> <p>○ふりかえり・まとめ</p> <p>「学習を終えて」を記入</p> <p>○指導者のまとめの話</p>	<p>① ②</p> <p>① ② ①</p> <p>② ①</p> <p>① ② ①</p> <p>① ② ①②</p> <p>① ② ①②</p> <p>①② ② ①②</p> <p>②</p>	<p>②</p> <p>①</p> <p>①②</p> <p>②</p> <p>①②</p> <p>②</p> <p>①②</p>	<p>□学習ガイドの記述内容</p> <p>各自計画したものを基に、組み合わせたり省略したりしながら、更に強調したり、よくしていくための企画を練る。</p> <p>・実際に制作</p> <p>□表情および行動を確認</p> <p>□学習ガイドの記述内容</p> <p>作品の説明をしたり聞いたりすることで言語活動の推進を図る。</p> <p>□学習ガイドの鑑賞ページ</p> <p>・作品の紹介 須田悦弘《チューリップ》鑑賞</p> <p>・班内の協力を促す</p> <p>思い描いたイメージを、お互いに発見しあったり、共感したりする部分を伝えあい、材料の選択や表現方法などに生かせるよう対話を重ねる。</p> <p>□学習ガイドの記述内容</p> <p>☆あらかじめ用意してある材料から発想を広げさせるようにする。</p> <p>経験や体験から具体的な事柄について考えさせ、そこからイメージを広げられるように働きかける。</p> <p>□動き+学習ガイドの記述内容</p> <p>□動き+学習ガイドの記述内容</p> <p>☆どこで躓いているか確認し、ポイントとなる観点について考えさせる。</p> <p>制作の前半は特にCの生徒をBになるように働きかけ、後半Aの生徒を評価する。</p> <p>□学習ガイドの鑑賞ページ</p> <p>□学習ガイドの記述内容</p> <p>主題を表現するための形や色彩、材料の工夫などを感じ取り、根拠に基づいて自分の考えを述べているかなどを読み取る。</p> <p>完成作品から再度評価し、授業内での評価を確認し、必要に応じて修正する。</p> <p>本題材で習得・活用・意欲（探究）</p> <p>習：教えられ学んだことをもとに形や色彩、材料の選択をする中で表現し、その中で更に資質・能力が深まり知識・技能の習得が図られる。</p> <p>活：形や色彩、材料の特性を考え、適した用具を使い、これまでの習得した発想・構想や技能面などの資質・能力を發揮している。</p> <p>意：新たな発見やよりよい作品にするために今までの学習を活かしながら関心を持ち意欲的に表現していこうとしている。</p>
---	---	---	---



自分たちの作品を見ながらイメージの広がりや、他の生徒作品を鑑賞することで表現意図を推しはかり工夫したことを感じ取る。これらを通して表現することへの自信やつくること見ることの楽しさを味わう取り組みとする。

本題材で習得・活用・意欲（探究）

習：教えられ学んだことをもとに形や色彩、材料の選択をする中で表現し、その中で更に資質・能力が深まり知識・技能の習得が図られる。

活：形や色彩、材料の特性を考え、適した用具を使い、これまでの習得した発想・構想や技能面などの資質・能力を發揮している。

意：新たな発見やよりよい作品にするために今までの学習を活かしながら関心を持ち意欲的に表現していこうとしている。

## 6. 本時の学習

- (1) 日時 平成 22 年 10 月 23 日 (土) 10:00～11:20 (1.5 時間)
- (2) 場所 山梨大学教育人間科学部附属中学校 美術室
- (3) ねらい 制作しようと考えている作品の説明を通して、作品意図の明確化を図ると共に、他からの意見も参考に再度練り直しをしたりして今後の展望を持ちながら制作する。
- (4) 生徒の実態 男子 19 名 女子 20 名 計 39 名 学級の雰囲気は概ね落ち着いている。諸活動に前向きに取り組む生徒が多いが、率先してというところまではない。美術に対する関心も決して高いわけではないが、課題に対して真面目に取り組む姿勢を持っている。中には美術に対して苦手意識を持っており、集中して物事に取り組むことができない生徒もいて、気分を乗らせる働きかけが特に必要なものもいる。そういった生徒に対してもしっかりと自分と対峙し、そこからわき起こる思いや願いを大切に、自分自身のよさに気づかせていきたいと考える。また、本物の作品を作家から借用し鑑賞することにより、美術家が何を考え表現しようとしたか、作品を直に見ることによってその意図を推しはかり、自らの作品制作の参考にしたり、制作意欲の喚起につなげられればと考える。

### (5) 展開

学習活動	教師の支援	評価 (備考)
開始		前回までの内容の確認を指示
<p>準備確認 ①『学習ガイド』をもとに、今回の授業を確認する。</p> <p>②作品の制作意図の発表に必要なものの準備</p> <p>・本時の内容の確認。</p> <p>これから制作しようとしている表現意図を発表し合う中で、自分の考えに自信を持ったり、より良い作品にするために他の意見から再考したりして制作を進めていく。</p> <p>・グループ内発表準備</p> <p>学習ガイドと前回までに用意した材料などをもとに、発表の準備、確認を行う。</p> <p>(5分)</p> <p>班になる</p> <p>・グループ内でのプレゼンテーション</p> <p>グループ1～グループ6まで</p> <p>(15分)</p> <p>一人ひとりが自分で考えた作品の表現意図について発表しあう。</p> <p>疑問に思ったことを質問したり、共感できたことなどの意見を伝えあう。</p> <p>・教師の選んだ作家の作品とコメントを伝える</p> <p>・山口晃 ・柳幸典</p> <p>・須田悦弘 など</p> <p>表現技法、材料、コンセプトなどの観点で紹介作品の鑑賞を行い学習を深める。</p> <p>(20分)</p> <p>*本来はここで再考し次時に向けての確認とまとめを行う。</p>	<p>「前回までに決めた各自のテーマと各自で準備した材料などをもとに、それぞれが考えてきた企画案を確認して、グループ内でプレゼンテーションをする準備をしよう！」</p> <p>→学習ガイドを確認しながら発表の要点を確認</p> <p>「各自準備はOKかな?では、順番に発表していきましょう」</p> <p>・どんなテーマで日本的なものを視野に入れながら、それをどのような材料を使って表現していくか、自分の考えをできるだけ具体的に述べるようにする。</p> <p>→感想などを鑑賞ページに記入をする (メモをとるよう指示)</p> <p>「発表が終わったら 質問、意見をしてください！」</p> <p>→発表を聞いてイメージできない部分についての質問や共感した部分に対する意見などを促すように促す。</p> <p>「各グループ内での発表は終了しましたか！」</p> <p>各グループの進捗状況の確認</p> <p>・主題を基に、どんなところに「日本的」と感じるか、形や色彩、材料の工夫や雰囲気などから考えるよう促す。</p> <p>「ここから、私が選んだ作家の作品を見てもらいます」</p> <p>→時間をみながら数枚を説明</p> <p>素材について、表現意図について、表現方法についてなど制作の参考になりそうな観点、考え方、工夫点などを紹介する。</p> <p>須田さんの作品についての鑑賞を行う。</p> <p>・作品からどんなことを感じるか?</p> <p>・作品はどんな方法でつくられているか?</p> <p>・作者はどんな表現意図で制作しているか?</p> <p>・日本的と感じるところはどこか?</p> <p>などから、鑑賞の能力を育むと共に自らの作品制作の参考にさせたり、制作意欲の喚起につなげるようにする。</p>	<p>各自でそれぞれプレゼン用の準備</p> <p>活動状況確認</p> <p>これから制作しようとする作品のコンセプトを説明したり、聞いたりすることで、言語活動の推進を図る。</p> <p>各自の課題の再確認</p> <p>ア-② エ-①</p> <p>鑑賞態度および会話、学習ガイドの鑑賞ページの記述から判断</p> <p>視点をもって感じ取ろうとする態度などを見る</p> <p>プロジェクターの準備</p> <p>須田悦弘《チューリップ》</p>



<p>・作品の再考と制作 (25分)</p> <p>○表現意図 (発想・構想)</p> <p>○表現方法 大きさ, 形, 色彩, 材料, など</p> <p>・まとめ (5分)</p> <p>次時の内容の予告</p> <p>・終了</p>	<p>「それでは, 先ほどグループ内で発表して意見をもらったことと, 今私が紹介したこと, 作品を鑑賞て気づいたことなどを参考に, 再考するところがあれば練り直しをし, 進めるところは作業をしていってください。」</p> <p>→気づいたところを学習ガイドに付け加えていく。懸案事項は場合によっては付箋紙などを用いて分けておき後で整理するようにする。高さ, 広さ, 材料など何をどのように表現していくかより具体的に考えさせる。</p> <p>「発表を通して更に明確になったという人は, 自信を持って制作を進めてください。でも常によりよい表現を模索していくことは忘れないでください。」</p> <p>「現段階で方向性が明確になった, もしくはこんなところで悩んでいる人がいたら発表してください」</p> <p>→それぞれ発表した内容について良いところや改善するポイントを示唆する。</p> <p>「では, 個人評価をしてください」</p> <p>「次回からは本格的に制作に入ります。今日グループで発表したことや話し合ったことを確認し, 新たに必要な材料が出てきた人はその準備をしてください。自分の決めたテーマに迫るための表現を常に意識しながら制作に臨んでください。」</p> <p>「これで今日の授業を終わります」</p>	<p>イー②</p> <p>活動状況や学習ガイドの記述より判断</p> <p>主題を基に形や色彩, 材料などコンセプトに深まりを持たせ構想を練っているか注視して見るようにする。</p> <p>学習ガイド回収</p>
---	---	--